

2020年度(2019年度実施分)政策評価結果 に対する意見集

本意見集は、豊中市総合計画審議会の審議過程において各委員から出された意見を取りまとめたものです。

今後、政策評価の運用にあたっては、本意見集及び添付している各部会の議事要旨をご活用いただくことをお願いするものであります。

令和3年(2021年)1月27日

豊中市総合計画審議会
会長 加藤 晃規

2020年度(2019年度実施分)政策評価結果に対する意見

当審議会では、2020年度(2019年度実施分)政策評価結果において、第三者の立場から、政策評価が事実に基づいて正しく評価されているか、PDCAサイクルがまわるような書き方になっているか、市民が読んだときにわかりやすくなっているかの視点から審議を行い、意見として取りまとめましたので、報告します。

◆総論について

1	<p>【総合評価の理由について】</p> <p>施策シートの総合評価の理由について、現在の書き方は、施策の方向性シートの評価を順番にもう一度施策シートに単純にまとめているものも見受けられるが、施策シートの施策名の下段にある内容(プラン)に即して評価することで、施策としてのPDCAサイクルがまわっているかが見やすくなる。</p>
2	<p>【シートの記入内容について】</p> <p>評価シートを書く際には、自分たちの施策がどういう状態になったらうまくPDCAがまわっていると言えるのかの具体的なイメージをもち、抽象的な表現を説明できるような指標などを明確にもっておくと評価の説得力が増す。</p>
3	<p>【成果として書く内容について】</p> <p>毎年度行っている事業や全国一律で行っているような取組みを成果として書くよりも、豊中市独自の取組みやメディアに取り上げられた先進的な事例とその成果を書いた方が、市民へのアピールに繋がる。</p>
4	<p>【シートの記入内容について】</p> <p>総合評価の理由を読んだときに、市役所の仕事はイメージできるが、市民の暮らしや市民の顔が見えるようなエピソードや具体例を随所に組み込んでいくことで、わかりやすくなる。</p>
5	<p>【シートの記入内容について】</p> <p>「〇〇的」という記述は抽象度が上がるので、具体的な内容を記述するなどわかりやすく伝える工夫が求められる。</p>

6	<p>【指標の捉え方について】</p> <p>指標の数値が現段階で増加した方がいいのか、あるいは減少した方がいいのかなどを記述することで、その数値に対する評価をわかりやすく伝えることができる。</p>
7	<p>【意見集の評価シートへの反映について】</p> <p>今年度の意見集で、審議会から指摘している点については、研修などを通して、各部局にしっかりと広く周知するとともに、次年度の評価の際に役立ててほしい。</p>
8	<p>【次年度の評価シートについて】</p> <p>次年度の評価では新型コロナウイルス感染症の影響や取組み・成果・課題等も記述することにより、コロナ禍の行政の施策を評価することができる。</p>
9	<p>【総合評価の根拠について】</p> <p>施策シートの総合評価の理由の最後には書いてある、ABCと判断した理由を丁寧にわかりやすく書くことを心掛けられたい。</p> <p>(今年度のプランに対して、できたこと(成果)、やり残したこと(課題)、課題に対して今後取り組むこと(今後の方針)をそれぞれ具体的に書くことで、総合評価の根拠がわかりやすくなる。)</p>

2. 後期基本計画策定に際しての検討材料について

1	<p>【後期基本計画のプランについて】</p> <p>前期基本計画では、施策名の下の記事の抽象度が高くなっていて、評価しづらくなっているため、後期基本計画を策定する際には、評価を意識した内容にすることで評価しやすいプランになる。</p>
---	---

◆各論について

1. 第1章「子ども・若者が夢や希望をもてるまちづくり」

(1) 第1章-1「子育て支援の充実」について

1	【シート全体の書き方について】 施策シートの総合評価の理由に書かれている内容のほとんどがDoになっているので、Doに対する成果・課題をしっかりと記述した方がよい。
2	【シートの記入内容について】 施策シートの総合評価の理由の最後2行の部分で、「多様な取組みを展開していく」とあるが、「具体的にどんな取組みの展開を考えている」とか、「課題が残っているので今後はこんな展開を考えている」というように記述することで評価の理由が明確になる。

(2) 第1章-2「保育・教育の充実」について

1	【シート全体の書き方について】 総合評価の理由の2つ目の○について、庄内さくら学園と豊中市全域の内容が混ざっている。主語を明確にした方が正確に伝わる。
2	【シート全体の書き方について】 庄内さくら学園などのハード面の評価は、計画から完成までに各年度の進捗状況を確認し、学校が完成していなくとも、当該年度の取組みが順調に進んでいることがわかるように記述することで、PDCAサイクルがまわっているかがわかりやすくなる。
3	【施策の方向性シートの記入内容について】 P39の施策の方向性シートは、取り組んだこと(Do)を細かく羅列しているので、Checkを書いて、それを根拠づけるために成果の部分を書くとうわかりやすくなる。

(3) 第1章-3「子ども・若者支援の充実」について

1	<p>【シート全体の書き方について】</p> <p>全体的に表現が抽象的で、成果・課題がわかりにくいので、読む人にとって具体的にわかりやすい文章を心掛けてほしい。</p>
2	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>2つ目の○の3行目で「関係機関との連携の強化を図ります」とあるが、連携がどこまでできているのか、何が足りていないのか、今後は何を強化するのかということを書き明かしてほしい。</p>

2. 第2章「安全に安心して暮らせるまちづくり」

(1) 第2章-1「自立生活支援の充実」について

1	<p>【シート全体の書き方について】</p> <p>施策の方向性シートの進捗状況で、(1)～(3)が「B」、(4)～(5)が「A」になっている。このことから制度・仕組みは一定できているが、運用で課題が残っていて、特に地域の中での支えあいのネットワークやコミュニティづくりに大きな課題が残っているような印象がある。このような大きな視点で見えたことを、総合評価の理由で端的に書くとわかりやすい評価になるのではないか。</p>
---	--

(2) 第2章-2「保健・医療の充実」について

1	<p>【シート全体の書き方について】</p> <p>この施策は、「心身の健康」と「生活衛生」と「地域医療」の3つの柱から構成されているので、これらが狙った方向に向かっているのか、あるいは進捗の途中で完成はしていないが予定通りに進んでいるのかという観点で記述した方がよい。</p>
2	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>メンタルヘルスリテラシーのような専門用語があり、全体的に冗長で難解な文章になっている印象があるので、誰もが理解できるような言葉で置き換えたり、用語集を充実させるなどの工夫が必要である。</p>
3	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>総合評価の理由の1つ目の○で「メンタルヘルス計画に基づく推進会議のもと」とあるが、これによってどんな成果があったのかを具体的に書いてほしい。</p>

4	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>全体的に「取り組みました(Do)」から「今後は～(Action)」につながっているが、「取り組んだ成果がこうだったから(Check)今後こうします」とすると、よりわかりやすい文章になる。</p>
---	---

(3) 第2章-3 「消防・救急救命体制の充実」について

1	<p>【シート全体の書き方について】</p> <p>昨年度と同様にわかりやすく書けている。</p>
---	--

(4) 第2章-4 「暮らしの安全対策の充実」について

1	<p>【シート全体の記入内容について】</p> <p>施策シートの施策名の下段では「自ら守る、地域で守るという意識の醸成を図ります」とあるが、総合評価の理由にある「とよなか防災アドバイザー派遣制度を実施し、地域の方々の防災力向上に繋がりました」からでは、より多くの市民にまで意識が向上しているのかがわかりづらい。施策全体としてA評価とするためには、防災面では課題があることを記述しつつ、それ以外の防犯・交通安全については成果があることを示すなど、PDCAサイクルがうまくまわっている根拠を示した方がよい。</p>
---	---

3. 第3章「活力ある快適なまちづくり」

(1) 第3章-1 「快適な都市環境の保全・創造」について

1	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>総合評価の理由の最後の一文に「一部未達成の部分や課題もある」と書かれており、施策全体でB評価になっている。何が未達成だからB評価にしたかを具体的に記述することでよりわかりやすくなる。</p>
---	---

(2) 第3章-2 「低炭素・循環型社会の構築」について

1	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>総合評価の理由に「市域から排出される温室効果ガスの総排出量が削減され、地球温暖化への対策が順調に進んでいます」とあるが、施策の方向性シートの指標にもその根拠データがないので、過去の数値と比較するなど書きぶりを工夫してほしい。</p>
2	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>P D C A サイクルがまわっているかの観点からすると、「一部未達成の部分も見られる」だけではなく、未達成の内容まで具体的に記述することでよりわかりやすくなる。</p>
3	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>総合評価の理由の2つ目の○に「さらなる取組みが必要」と書いているが、その具体的な内容が書かれていないので記述することでよりわかりやすくなる。(例えば、施策の方向性シートでは、今後の方針のところに、事業系ごみの減量について取り組むことが書かれているので、次年度の評価では数字がどのように推移しているかも記述した上で、施策シートにも書くことを検討してはどうか。)</p>
4	<p>【指標について】</p> <p>成果・問題点・今後想定される事項・今後の方針の根拠となる指標を設定することにより、事業の効果がわかりやすく見えるようになる。</p>

(3) 第3章-3 「都市基盤の充実」について

1	<p>【指標について】</p> <p>指標の中には、目標値と実績値の推移が乖離しているものがあるので、計画通りに進んでいるのかを文章で記述することが望ましい。</p>
2	<p>【施策シートの書き方について】</p> <p>橋梁の改修や住居地区バリアフリー事業など、改修工事をした場所などを具体的に書いた方がわかりやすくなる。</p>

(4) 第3章-4 「魅力的な住環境の形成」について

1	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>総合評価をB評価とするのであれば、課題があり、見直しが必要ということになる。概ね順調で一部取組みの見直しが必要だということであれば、課題と取組みの具体的な見直しを記述することでよりわかりやすくなる。</p>
---	---

(5) 第3章-5 「産業振興の充実」について

1	<p>【総合評価について】</p> <p>産業振興の充実に向けて、様々な取組みを進めているので、市民の意識調査の結果が低いのは課題であるが、もしPDCAがきちんとまわっているのであれば、A評価をつけてもよいのではないか。</p>
---	---

4. 第4章 「いきいきと心豊かに暮らせるまちづくり」

(1) 第4章-1 「共に生きる平和なまちづくり」について

1	<p>【シート全体の書き方について】</p> <p>全体に文字量が多いので、総合評価の理由の1つ目の○では「人権平和センター開設に向けて～」と開設に向けての準備について2文に分けて書いているものを、1つにまとめて簡略化するなど、市民にとってわかりやすい文章を心掛ける必要がある。</p>
2	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>総合評価の理由の2つ目の○では人権についての市民意識調査について、そこから何がわかったのか、何を市が課題だと思って次の施策に活かしていくのかということを書いた方がわかりやすい。</p>
3	<p>【指標の設定について】</p> <p>指標について、参加人数だけではなく、学習の場としての講座数や講演回数など、市がコンスタントに市民に向けて情報発信をしていることもあわせて指標にする方が市民にとってわかりやすいのではないか。</p>

(2) 第4章-2 「市民文化の創造」について

1	<p>【シート全体の記入内容について】</p> <p>総合評価の理由で「計画や構想の策定に取り組んでいく必要があるため、施策全体の評価を「B」としました」あるが、A評価にするために欠けていることが何で、どんなことに取り組むのかを具体的に書いた方がよい。</p>
2	<p>【シート全体の記入内容について】</p> <p>豊中市は文化都市としてのイメージが定着しているため、市民ホールの活用実績など、もっと充実した内容で他の都市にはない文化的な要素を記述した方がよい。</p>
3	<p>【シート全体の記入内容について】</p> <p>市民ホールを活かして芸術鑑賞の機会をたくさん提供できていること、ワークショップやアウトリーチ型の普及育成事業についてもターゲットや回数、当該年度の新たな取り組みなどを具体的に施策シートに書くともっとわかりやすくなるのではないかと。</p>

(3) 第4章-3 「健康と生きがいづくりの推進」について

1	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>総合評価の理由の最後の一文に「引き続き関連部局、機関と連携した取組みを進めていく必要があるため」とあるが、どういう関連部局とどういう連携をとるのかを具体的に書いた方が次の施策につながるのではないかと。</p>
---	---

5. 第5章 「施策推進に向けた取組み」

(1) 第5章-1 「情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」について

1	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>総合評価の理由の1つ目の○で「SNSにおいて新たにInstagramとLINEを開始し」とあるが、現時点で見えている成果を書くことで、Check がまわっていく。</p>
---	--

2	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>総合評価の理由の最後の2行で「今後さらなる充実の必要があるため」とあるが、具体的に何が充実したらいいのかが書かれていないので、担当課が考えている充実の内容を書いた方がよい。</p>
---	--

(2) 第5章-2「持続可能な行財政運営の推進」について

1	<p>【施策の方向性シートの記入内容について】</p> <p>P84の施策の方向性シートの成果の3つ目の○で「住み続けたいと感じる市民の割合は目標を達成する結果となっています」とあるが、これに関連する指標がないので、数値などを記述することでわかりやすくなる。</p>
2	<p>【総合評価について】</p> <p>総合評価で「A」評価をつけているが、今年度は仕組みを作ったP(Plan)の段階で、まだD(Do), C(Check), A(Action)がまわっていないので、評価がうまくまわっていると判断することは難しい。一度C(Check), A(Action)がまわって、成果を文章で書けるようになってから「A」評価をつけることが望ましい。</p>
3	<p>【施策シートの記入内容について】</p> <p>総合評価の理由の4つ目の○で「連携協定をファミリーマートと締結しました」とあるが、Doだけであり、連携協定の成果・次年度への課題がわからないので、記述した方がよい。</p>

6. リーディングプロジェクト「南部地域活性化プロジェクト」

1	<p>【リーディングプロジェクトの評価シートについて】</p> <p>リーディングプロジェクトの評価は施策の方向性シートのみを使用している。現状、B評価をつけた理由がわかりづらいので、総合評価の理由がわかりやすくなるよう工夫してほしい。</p>
---	---

令和2年度 豊中市総合計画審議会第一部会 第1回会議 議事要旨

- 日時 令和2年(2020年)10月2日(金)18時～19時45分
場所 ZOOMによるWEB会議(事務局は第二庁舎3階大会議室)
出席者 久部会長、大野委員、宗前委員、濱元委員、佐佐木委員
計5名
事務局 都市経営部経営計画課：寺田、坂本、田中、島、上田
傍聴者 なし
案件 1. 前回の振り返り
2. 2020年度(2019年度実施分)政策評価結果について
3. その他
資料 【資料1】2020年度(2019年度実施分)政策評価結果
【資料2】令和2年度第1回豊中市総合計画審議会 議事要旨
【参考1】第4次豊中市総合計画(本編)
【参考2】第4次豊中市総合計画(概要版)

会議録 下記のとおり

記

●開会

●成立要件の確認

事務局：

「豊中市総合計画審議会規則」では成立要件として委員の過半数の出席を必要としております。本日は委員総数5名中、5名の委員にご出席いただいておりますので、成立要件を満たしております。

本日、傍聴者は0名です

●資料の確認

(事務局より配布資料について説明)

●案件1「前回の振り返り」

部会長

「前回の振り返り」について事務局からお願いします。

事務局

(事務局より資料 2 に基づき、前回の振り返りについての説明)

部会長

ただいまの説明について、ご質問・ご意見はございませんか。

それでは、案件 2 「2020 年度(2019 年度実施分)政策評価結果について」事務局から説明してください。

●案件 2 「2020 年度(2019 年度実施分)政策評価結果について」

(事務局より次第に基づき、政策評価結果のシートを見る時のポイント及び本日の部会の進め方についての説明)

部会長

それではさっそくシートを見ていきます。

(第 1 章-1「子育て支援の充実」シート(P15)について)

委員

総合評価の理由の 2 つ目の○で「待機児童について 3 年連続でゼロを達成しました」とありますが、市が行っている市民意識調査では保育所等への意見が様々ありますし、国の定義に当てはまらない待機児童がいると市のホームページで見ましたが、このような意見については書かれていません。

部会長

今仰っていただいた意見につきましては、こども未来部が所管する会議で、施策の評価がされると思います。すべての項目でこのような細かいことを見ていくと、この部会の負担もかなり大きくなります。ですので、総合計画審議会としては、施策の具体的内容まで踏み込むのではなく、PDCAがまわっているかのチェックをすることが役割であると行政評価指針でも示されています。

委員

待機児童が 3 年連続ゼロになっていると施策シートには書いていますが、国の定義に当てはまらない待機児童は 321 人います。そのことは課題として書いてほしいということが私の意見です。

部会長

この施策シートを読んでいると、ほとんどが Do になっています。Do に対する成果・課題が薄いように感じますので、成果・課題を書くように担当課に伝えていただきたいと思います。また施策名の下段に書いてある内容を評価してほしいと思います。これは他の施策シートでも同様です。現在の書き方は、施策の方向性シートの評価を順番にもう一度施策シートにまとめている印象があります。そうではなく、施策シートの施策名の下段にある内容をもとに書く方が、施策レベル

【参考1】

の評価になるのではないかと思います。そうするともっとコンパクトに総合評価の理由を書けるとと思います。私は施策名の下の部分の「地域のなかで、まわりの人々に支えられ」というところがこの施策では重要だと思しますので、ここがどうなっているかを知りたいです。また第1章の施策シートの総合評価の理由の最後の2文が同じような書きぶりになっています。しかしPDCAサイクルの観点では、例えば1-1のシートでは、「多様な取組みを展開していく」とありますが、具体的にどんな取組みの展開を考えているとか、こういう課題が残っているのかこんな展開を考えているかのように書いていただくとよりわかりやすいシートになると思います。またこの施策シートは市民の意識が少しだけ下がっています。そのことに対するコメントも書いてほしいと思います。

では次のシートに移ります。

(第1章-2「保育・教育の充実」シート(P16)について)

委員

2点あります。1点目は、2つ目の○で「庄内さくら学園の実施設計を行いました。また、外国人英語指導助手派遣事業の派遣期間延長や各小学校へタブレット端末を追加配備等を実施しました。」とありますが、また以降の部分は豊中市全域に関することとして受け取ってよろしいでしょうか。

事務局

大丈夫です。

委員

そうであるならば、前後で庄内さくら学園の話をしているので、この部分も庄内さくら学園のことだけだと誤解される可能性があると思いますので、主語は正確に書いた方がいいと思います。また3つ目の○は、新しく何かをするというよりはすでに行っていることの記述だと思います。これだと何が成果ポイントか見えにくいと思います。またコミュニティスクール以降の文はこれからのことなので、ここに書いているのはどうかと思いました。

部会長

毎年度行っている事業をあえて成果として記述する必要はないのではないかとご意見です。

委員

前回の資料でいただいた昨年度の意見集のP6の3番に「総合計画のP47の主な取組みの「③共に学ぶ教育の推進」は、全国の中でも先進的な取組みであり、豊中市の教育の大きな特徴なので、アピールポイントとして評価シートに書くべきである。」とありますが、この意見集の内容が今年度のシートに反映されていないと思いますが、これでいいのでしょうか。

部会長

意見集の取扱いについて、事務局から説明をお願いします。

事務局

昨年度の意見集につきましては、担当課にフィードバックをさせていただき、意見集を参考にしながらシートを作成することをお願いしておりますが、今年度反映できていないのが現状です。

部会長

全国一律で行っているような取組みを書くよりも、先ほどの委員が仰ったような他市に誇れるような取組みを書いた方がいいのではないかと、というコメントを今年度の意見集に書いていただければと思います。

先ほど委員からご指摘があった庄内さくら学園についてですが、これから進めていくので課題のような書き方になっていますが、完成するまではできていないことが当たり前ですので、評価をするのであれば計画から完成までに各年度で順調に進んでいるかを評価してほしいと思います。つまり完成しなくても計画通りに進んでいるのであれば、課題ではないですので、そのあたりの書きぶりに注意していただきたいと思います。また先ほどのシートとも被りますが、施策名の下に3行が重要で、「発達段階に応じた連続性のある保育・教育を充実し」とありますが、連続性のある保育・教育が充実したのかを書いてほしいですが、総合評価の理由からは読み取れません。さらに「人とつながり、未来を切り拓く力が育まれるよう取り組みます」が、人とつながり、未来を切り拓く力が育まれているのかが、書かれていません。つまり、施策の方向性から積み上げるのではなく、施策名の下部分を評価するようにすると施策シートと施策の方向性シートの書きぶりにメリハリがついてくると思います。例えば和泉市では、地域の中にある幼稚園・保育園・小学校・中学校の先生方が集まって年に数回意見交換会を行っています。その中で、切れ目のない連続性のある保育・教育が実現に向かっています。このような取組みを豊中市でも行っているのであれば記述してほしいと思いますし、行っていないのであれば課題として書いてほしいと思います。

事務局

本市でも幼保小で連携して、指導者が集まるケース会議等を実施しています。また障害児保育等もあわせて幼稚園・保育所から小学校へ引継ぎができる仕組みになっており、豊中市の特徴となっています。特徴的な事柄については具体的に評価シートに記載するよう担当課に伝えます。

部会長

先ほども申しましたが、「やっている」ではなく、「どのように成果があったか、課題としてどういうところが残っているか」という観点で書いていただくと、連続性があるという部分の評価ができていないと判断できると思います。

委員

先ほど委員からご指摘いただいた、昨年の意見集のP6の部分ですが、「書くべきである」と書きぶりが強くなっていますが、発言の趣旨としては「政策評価は市民と行政の一種のコミュニケーションのツールですので、せっかくなら書いているなら書いてはどうですか。」というニュアンスでした。しかし審議会としてご指摘した点については、反映していただいた方がいいよう

に思います。

委員

前回の振り返りの部分で事務局から指標について、必ずしも成果と合致するものではないと説明がありました。そのうえで該当する施策の方向性シートを見ていますと、P39 になりますが、成果の内容と指標が合致していないように感じます。今回で言えば、施策シートの総合評価の理由を読んでわかりにくかったので、施策の方向性シートを見に行ったのですが、P39 のシートは細かく羅列されていますので、少し整理が必要ではないかと思います。取り組んだことすべてを書くのではなく、整理していただくことでこのシートの評価が見やすくなると思いました。

部会長

おそらく Do を書こうとするので、このような傾向になるのだと思います。Check を書いて、それを根拠づけるために書くようにするとわかりやすい文章になると思います。

委員

先ほどの委員と同様で、施策の方向性シートの成果の部分と施策シートの総合評価の理由の部分がうまくつながっていないように感じました。

部会長

それでは次のシートに移ります。

(第 1 章-3「子ども・若者支援の充実」シート(P17)について)

部会長

全体を通して、抽象度が高い書きぶりだと感じました。例えば 1 つ目の○の 3 行目に課題として「効果的な実施方法の検討等を行います」とありますが、これは逆に言えば、今は効果が出ていない部分があるということになります。しかし、それがどこなのかがわかりません。失礼な言い方かもしれませんが、筆が滑っている感じで、書いているけど内容が伝わってきません。2 つ目の○の 3 行目でも「関係機関との連携の強化を図ります」とありますが、今連携がどこまでできていて、何が足りないのか、何を強化するという書きぶりが必要なところです。3 つ目の○の 2 行目に「効果的かつ円滑に支援を行いました」とありますが、効果的かつ円滑と言える根拠は何なのかが書いていません。○○的とか形容詞は多いですが、内容がわからない書きぶりになっているので、そのあたりを精査していただくとわかりやすい文章になると思います。

委員

P41 の施策の方向性の部分ですが、成果の 3 つ目の○の寄り添い型学習支援事業について、「学習者 25 人中 21 人が希望通りの高校に進学を果たす」とありますが、残り 4 人はどうなったのかが気になりましたので、そのことにもどこかで触れてほしいように思いました。また P43 の成果の 2 つ目の○で、ひきこもり対策強化事業とありますが、この事業の対象者がわかっているのであれば、人数を書いていただくと具体的でわかりやすいと思います。

委員

ひきこもり対策強化事業の必要な対象者数ということでしょうか。

委員

そうです。

部会長

つまり、ひきこもりをされている方の人数ということですね。

委員

そのとおりです。

部会長

それはなかなか難しいと思います。

委員

しかし、市が対策事業をしているのであれば、何らかの形で把握していると思います。

部会長

これは調査をしたとしても実態がわからないでしょうし、なかなか難しいのではないかと私は思います。

次の基本計画を作るときのお願いになりますが、P17 の施策名の下の 3 行に将来の方向性が書かれていて、すごくいいことを書いていますが、理念的な内容なので評価をすることが大変だと思いました。今後は評価しやすいように将来像に具体性をもたせて書いた方がいいと思います。今の書きぶりもいいと思いますが、「希望に満ちた明るい社会を展望しながら」と言われて、なんとなくはわかりますが、具体的にどういうことですかと聞かれると抽象度が高くて困ってしまうと思います。ですので、もう少し評価を見据えた書きぶりを次の後期基本計画ではお願いしたいと思います。例えば、大学でもディプロマ・ポリシーを書く時に「国際性豊かな人間を育てます」と書きますが、それをどうやって評価するのかと聞かれると困ってしまいます。これと同様で計画を作成する段階から評価を意識した書きぶりにしていただきたいと思います。

委員

評価を意識して書くということは、結果の状態、つまりどういう状態になったらうまく P D C A がまわっているかとか、P D C A がおおまわっているが課題もあるというようなイメージをもっていたら良いと思います。先ほどの事例でいうと「国際性豊かな」という書きぶりが、例えば外国に行くことや外国で就職することをためらわない人が 4 割ぐらい出てきたら国際性豊かだと判断できるというような形で言い換えることができることが大事だと思います。その評価が妥当かどうかを審議会でメタ評価していくことになります。抽象的な書きぶりでも、踏み込んで聞かれた場合に、実はこういうふうに考えていますと答えられるのが大事で、もし答えられるようなことを想定されているのであれば評価の書きぶりにも表れてくるとと思いますので、そ

【参考1】

のあたりに気をつけていただきたいと思います。書く欄が少なく大変だとは思いますが、抽象度が高く突っ込まれたときに具体的なイメージを答えられるようになっていけばいいと思います。

部会長

それでは次のシートに移ります。

(第2章-1「自立生活支援の充実」シート(P18)について)

部会長

昨年度も指摘しましたが、福祉の分野はまとまりすぎていて、書きづらい評価シートになっていると思います。とすれば、先ほどから申し上げているように、施策名の下2行をどのように評価するのかの観点で書いていただきたいと思います。今のシートは分野別福祉で評価していますが、ここは「個々のもつ力を活かし支えあいながら、住み慣れた地域で、自立して暮らせる環境づくりに取り組みます」とありますので、すべての人がまずは自分の力を活かしながら、さらに地域で支えながら暮らしていける環境づくりをするということですので、個別の分野の評価ではなく、それがトータルでみたときに取りこぼしている点はないのかというような評価が必要だと思います。また、施策の方向性シートの進捗状況の評価で、上の3つが「B」で下の2つが「A」からもわかるように、制度・仕組みは一定できているが運用でまだまだ課題が残っているという評価だと私は思いました。特に地域の中での支えあいのネットワークやコミュニティづくりに大きな課題が残っているのではないかという印象を受けました。そういうことがざっくり見れば、見えていると思いますので、そこを総合評価の理由で端的に書いていただくとわかりやすい評価になっていくと思います。

委員

私は福祉部の会議にも参加していますが、その観点から申しますと、豊中市は住み慣れた地域で暮らすという地域福祉では、非常に特色がある取組みをされていると思います。もちろん地域のすべての人に対して100%対応していくということは難しいので、100%は目指せませんが、かなりのことはできていると思います。しかしこの評価を見たときに、今年度目標としていたことはどこなのかという部分が見えにくいです。他の地域と比べる必要はありませんが、比べてみるとかなりのことをしていることがわかりますので、もう少しいい評価をできる場所があると思いますし、目標を見直されてもいいのかと思いました。いつも「頑張りましたが、まだ上を目指していきます」という書きぶりになっているので、ずっとB評価から抜け出せないように感じます。

部会長

先ほどの委員の仰るとおりかと思います。豊中市は、市と社会福祉協議会がタイアップしながら地域の福祉コミュニティづくりを行っています。これは全国の先進事例として紹介されるぐらいの取組みです。さらに小学校区では最先端のことをいろいろされているので、そういう意味では自信をもってこの部分の評価をしていただけたらと思います。

それでは次のシートに移ります。

(第 2 章-2「保健・医療の充実」シート(P19)について)

委員

このシートも細々とした書きぶりになっていると思います。先ほどから他の委員が言われているように Do を書くことこのようになってしまうと思います。このシートは心身の健康と生活衛生と地域医療の 3 つの柱から構成されています。これらが狙った方向に向かっているのか、あるいは進捗の途中で完成はしていないが予定通りに進んでいて特に不安を感じていないと担当者が判断しているのであれば、本来は A 評価をつけていいと思います。1 年でいきなりゼロを 100 にすることはできませんので、そのような無理を言わないために評価シートを設けているわけです。そこが書きぶりとして気になりました。3 つ目の○の地域医療の充実を図るという部分では、地域医療は面的な医療供給状態であったり、あるいはそこにいる人々の健康状態であったりをさす概念ですが、シートに書いてあることは、豊中市は市立病院をもっていますので、市立病院を中心としてその周辺との病院との連携を作っていくという話になっています。そうであるならば、軽症だといきなり大きい病院には来ないだとか、紹介率が上がっていて、まずは近所の掛かり付けの病院に行ってから大きい病院に行くという流れがちゃんとできているから密なキャッチネットが張ってあることが本来は評価されるべき状態だと思います。ですので、病院があつて、そこがうまく動いていて連携も働きかけていますというのは手段であり、P51 の方向性シートの A 評価の根拠としてはあまり適切ではないように思います。

委員

P19 の総合評価の理由のところですが、2 つ目の○で感染症対策のことが書かれていますが、新型コロナウイルス感染症のことが一切出てきません。次年度でもいいのですが、話題としてきちんと記述してほしいと思います。

部会長

2019 年度実施分としての評価ですので、なかなか難しい部分もあるかと思います。しかし 2020 年に向けての話として触れることも検討していただきたいというご意見でした。

私が読んだ印象としては、このシートも Do が多く、成果と課題がわかりにくいと思いました。もっと成果と課題を表面に出していただきたいと思います。加えて全体的に冗長で難解な文章が多いと思います。特に保健医療は他の市でも同様の傾向がありますが、専門職の方がそれぞれの分野におられますので、文章を書くとき専門用語が並んだり、難解な文章になったりする傾向がありますので、もう少し市民にわかりやすい表現に変えていただきたいと思います。例えば、メンタルヘルスリテラシーと言っても専門家はわかりますが、市民にはなじみのない言葉です。ですので、一般的に使っているような言葉で置き換える、あるいはカッコ書きで補足するといった工夫が必要だと感じました。また総合評価の理由の最後の一文で「さらなる効率的・効果的な取り組みが必要」とありますが、この効率的・効果的という言葉は非常に便利な言葉だと思いますが、今効率的・効果的になっていない部分はどこなのか、またそれをどのように効率的・効果的にもっていきたいのかということ意識しながら、上の文章を書いていただくとよりわかりやすくな

【参考1】

ると思います。その他、施策名の下で3行で言いますと、「保健・医療体制の質の向上に取り組めます」とありますが、一体どういうことを目指しているのかを総合評価の理由にもきちんと反映してほしいと思います。具体的に質が上がったかどうかを評価しているはずですので、そこがわかりやすい表現・評価になればいいと思います。

委員

昨年度も申し上げましたが、保健医療の分野は、結果からみて過程を評価する手法が確立している分野だと思いますので、部会長が仰ったことは担当者も言われればなるほどと思っていただけるはずです。この分野は評価にもなじみやすいので、シートの優等生をめざしてほしいと期待しています。また先ほど委員が指摘したようなコロナに関することは2019年度実施分には載りにくいことですが、豊中市は保健所がありますので、来年度の評価に関していうと、コロナの影響で保健所はかなりひっ迫したと思われる。これはP51の「地域医療の充実を図ります」と連動しますので、例えば、医療提供体制の維持とコロナの患者が大量に集中したりしないように割り振りをしたりと保健所はかなり疲弊したと想定されます。そこをどのように乗り切ろうとしたのか、あるいは乗り切れなくて残した課題は何なのかはぜひ書いてほしいと思います。これは次年度の評価に書いていただきたいのであらかじめ申し上げておきます。

部会長

保健所と市民病院を両方もっているの、保健の専門家、医療の専門家が市のレベルで連携が取れるはずですので、そこがどうだったのか、そこで課題が残ったのであれば何を充実させていく必要があるのかということが書かれれば、豊中市らしい保健医療の評価になるように思います。

委員

P49のシートの指標の2つ目ですが、昨年度に比べ実績値がかなり下がっています。しかし、このことについて成果や問題点の部分で記載がありません。ここまで大幅に数値が下がったのであれば、その背景と課題・問題点を記述するべきだと思います。

委員

P19の1つ目の○で「メンタルヘルス計画に基づく推進会議のもと」とありますが、話し合ったことはわかりますが、これによってどんな成果があったのかは具体性に欠けると思いました。また全体を通して、「今後は」「今後も」という表現が多いように感じますので、もう少しすっきりまとめていただきたいと思いました。

部会長

今の委員のご指摘を補足させていただきますと、「取り組みました」はDoで、「今後は」というのは今後の展開でActionです。つまりcheckがなく、今後の展開になっているので、ご指摘のような印象を与えていると思いますので、取り組んだ成果がこうだったから今後こうしますとすると、よりわかりやすくなると思います。

それでは次のシートに移ります。

(第 2 章-3「消防・救急救命体制の充実」シート(P20)について)

部会長

ここは内容がとてもシンプルで、昨年度も申しましたが、書きやすくわかりやすいところだと思います。

それでは次のシートに移ります。

(第 2 章-4「暮らしの安全対策の充実」シート(P21)について)

部会長

ここはA評価をつけていますが、少し疑問に思います。施策名の下の部分では「自ら守る、地域で守るという意識の醸成を図ります」とありますが、施策の方向性の進捗状況では、防災力の充実強化がBで、総合評価の理由の1つ目の○の2行目に「地域の方々の防災力向上に繋がりました」とありますが、おそらく元々意識が高い方を対象とした意識向上は図られていると思います。しかし、より多くの市民まで到達できているのかまでわかりません。本来であれば、より多くの市民に自ら守る、地域で守るという意識の醸成をしたことが書かれてこそ、目標に到達するということだと思いますので、そこまで浸透しているのかと考えたときに疑問を感じますので、A評価はどうかと個人的には思います。

委員

このシートで言いますと、何が増加して、何が減少したかが具体的に書かれているので、評価の記述方法としてはわかりやすいと思いました。

部会長

それでは次のシートに移ります。

(第 5 章-1「情報共有・参画・協働に基づくまちづくり」シート(P30)について)

部会長

私から3点あります。1点目は、総合評価の理由の1つ目の○で「SNSにおいて新たにInstagramとLINEを開始し」とありますが、現時点で見えている成果を知りたいと思います。例えば、「InstagramとLINEを使ったことで、新しくこういう方々の反応がありました」などの成果を知りたいのですが、シートからはその部分が読み取れません。ここをきちんと書いていただくことでcheckがまわっていくように思います。2点目は、4つ目の○で「新たに地域自治組織が1組織設立されました」とありますが、新しく設立されることは非常にいいことだと思います。しかし私自身地域組織を応援している身としては、できた後のフォローアップまで書いてほしいと思います。設立された後、円滑に運営できているかどうか、組織ができたことで地域活動の質向上が図れたのかどうかというところまで市役所が責任をもって一緒に追いかけてほしいと思いますのが、そのあたりの評価は書かれていないと思います。3点目は、最後の文章で、「今後さらなる充実の必要があるため」とありますが、具体的に何が充実したらいいのかが書か

れていません。いくつか例示があれば、読み手側も担当課が考えている充実の内容がわかるので、次年度は書いていただきたいと思います。

委員

P79 のシートに指標が 3 つありますが、ここに情報公開の請求件数の指標を入れていただきたいと思います。市民が直接市政に関与できる制度ですので、指標として入れることを検討してほしいと思います。

委員

P80 のシートで、指標 4「市民公益活動推進助成金の申込件数」や指標 5「市民活動情報サロン利用者数」の件数がともに減少しています。この部分がうまく進んでいないような印象を受けますので、課題として書いていただけたらと思います。

部会長

それでは次のシートに移ります。

(第 5 章-2「持続可能な行財政運営の推進」シート(P31)について)

委員

施策の方向性の進捗状況を見ると、4 つのうち 3 つが B 評価ですが、総合評価が A 評価になっています。なぜ A 評価になるのか疑問に感じます。また P84 のシートの成果の 3 つ目の○で「住み続けたいと感じる市民の割合は目標を達成する結果となっています」とありますが、これに関連する数値がどこにもありません。ブランド戦略をみると、85.0%という数値がありますので、これを指標に入れてもいいように思います。ちなみに私個人としては 85.0%という目標は低いのではないかと感じています。

部会長

今の委員からご指摘いただいた 1 つ目のご意見については、この 4 つの進捗状況を平均して総合評価にする必要はなく、B 評価が 3 つで A 評価が 1 つでも部会のメンバーが納得できるのであれば A 評価をつけていただいてもいいと思います。しかし、私も総合評価の理由を読んだときに、なぜ A 評価なのかが読み取れませんでしたので、少し説得力が弱いのかと思いました。

事務局

1 つ目の○で持続可能な行財政運営を推進する観点で、まず 2 行目で「都市経営の視点で行財政運営の基盤強化の取組みや未来を見据えた重点投資など戦略的に都市経営を進めるために経営戦略方針を策定しました」という大きな柱を記述しています。その経営戦略方針に基づき、2 つ目と 3 つ目の○で、財政面での中期財政計画の策定と人材育成面での人材戦略の策定を記述しています。つまり経営戦略方針という大きな柱のもと、財務と人材という面の今後の道筋を立てるような戦略を作ることができたという点で P D C A サイクルをまわす土台ができたことから A 評価としています。

部会長

しかしながら、それは仕組みづくりです。今後それに関して、どのような成果を出していくのが文章としてほしい部分です。

事務局

そういう意味では、まだ戦略を作りましたというところまでしか書いていません。

部会長

そこが書いてくるとそれぞれの施策の方向性シートの評価もA評価が増えてくるのかと思います。そうすると全体もA評価だと納得できると思います。今の時点では、先ほどの委員も私も、仕組みは作ったけれども、これから頑張らないといけない印象を受けたので、A評価に疑問をもったと思います。

委員

市役所はどうしても予算編成を行う財政部門の力が大きくなりがちです。お金の使い方に非常にタイトな戦略をもっていて、その戦略ができてしまうとその期間はその計画に縛られてしまうので、よほどのことがない限り、逸脱することはないという心象風景が職員にはあるかもしれません。むしろ私は後半の人材育成の部分で、人事戦略が気になります。例えば、従来の典型的な公務員試験を止めて、その結果、民間企業に行ってもおかしくないような人を採用できました、あるいは志願してきましたということが出てきて初めてCとAがまわっていると判断できると思います。今の計画を立てた段階ではまだPDの段階ですので、評価がうまくまわりましたというのは難しいように感じます。作った職員の皆さんの意識として整ったという意識があるのもわからないわけではありませんが、一度CAがまわってからの方がいいと思います。

部会長

例えば生駒市役所では、学生の頃から地域活動や社会活動に参加して成果を出している人材を採用したいということで、かなりすごい人材を採用できる仕組みづくりを行っていて、そのための採用の方針も明確になっています。豊中市でも、ぜひとも豊中市職員になりたいという学生がたくさん集まるような仕組みを作っていただき、それを何かで証明できると先ほどの委員のお話はクリアできると思います。

委員

加えて申しますと、現在全国では都道府県庁の職員採用で辞退率が高くなっています。広域転勤があるということで敬遠されているからでしょう。大阪府だとそこまで遠くないかもしれませんが、京都府や兵庫県では日本海側に行く可能性もありますので、市と県では市に行く、大都市より中小都市を選ぶ傾向があるように思います。その中で豊中市はかなりの潜在力をもっていて、人を惹き付けられる地理的な条件もありますし、規模としても程よく大きいです。そうすると学生だけでいいのか、中途採用も含めて、さらには評価シートの中で就業関係の整備を書いていますので、おそらく女性の採用を強く意識されていると思いますが、そのあたりを評価していくことも大事だと思いますし、現在もやっておられると思います。いわば転職組が当たり前になって

【参考1】

いくことはいいことで、市役所内で大学卒業後そのまま市役所に入った人と転職で入った人が入り混じって豊中市をよくしていくようなことを人材戦略に練りこむことでよりいい計画になると思います。

部会長

WEB マガジンのホルグで「Heroes of Local Government」という、いわゆるスーパー公務員を特集する企画の中で、毎年公務員アワードを開催しています。これは公務員が公務員を推薦して賞を授与する仕組みになっていて、生駒市はかなりの確率でそのアワードを取っています。全国的にも有名な公務員が出始めていることも1つの指標になると思います。豊中市でも、採用戦略で何かユニークなことをしているのであれば教えていただけないでしょうか。

事務局

人材戦略の面では、中途採用を含めて多様な人材を獲得するよう努めています。その一環として、今年度から従来の一般教養試験枠とは別に新たにSPI枠を設け、民間企業を中心に就職活動を行っている方にも受験しやすいような採用試験を行いました。

部会長

もっとインパクトがあることは行っていませんか。生駒市では10年ぐらい前からSPIを採用しています。

事務局

SPI枠を設けたことに加えて、今年度から受験資格の年齢の上限を10歳引き上げ、多様な方が受験できるようにしました。また採用後の研修につきましても、採用年数に応じた様々な研修を行っています。

部会長

生駒市では、30代・40代のNPO業界では名の知れた人が中途採用で採用されています。また吹田市でも最終の市長面接のときはスーツを着ずに、私服で面接に来ることにしています。それで、その人の人となりが見えるだろうというユニークな最終面接を行っています。採用試験だけでなく人材育成の面でもインパクトが出てくるとA評価になると思います。

私はいろんな市役所の方とお話させていただいていますが、豊中市の職員はスマートな印象を受けます。逆に言えばやんちゃな方が少ないということです。元気すぎて暴走するぐらいの人が何人かおられると市役所が活性化してくるのではないかと思います。

委員

先ほど病院の話も出ましたが、病院は市役所の中でも例外的にビジネスを行っている部門になります。水道なども公営企業で、病院の場合はお客様がいてサービスを提供する場で、提供に関わる医療者もプロフェッショナルです。その中で市の行政職員がもまれていくことはいいことだと思います。言ってみれば、わざわざ民間企業と交流して出向する必要がないような体験ができる場です。私は医療の問題を研究しているものですから、医療の場を直営で所有していることは、

厳しくハードなネゴシエーションを知ることができる、一般の行政職員にとってはすごくいいところだと思います。

委員

P31の4つ目の○で「連携協定をファミリーマートと締結しました」とありますが、市民にとっては目を引く部分だと思いますが、何をしているのかが読み取れませんので、説明があるといいように思います。この文章は第1章-1(P15)のシートでも出てきています。

部会長

もし内容がわかれば、事務局教えていただけますか。

事務局

ファミリーマートとの連携は、子育て・子育て支援の充実に関する取組みに特化した連携協定となっています。連携内容としては子どもの見守り、安心・安全の確保、こども110番への登録などをさせていただいております。またとよなか子育て応援団へ協力いただき、ミルクのお湯提供などをさせていただいています。その他、ファミこども食堂として子どもの居場所・子育て世代の交流スペースの確保にご協力いただいたり、待機児童対策として保育所の整備時に物件情報の提供をいただいたりしています。

委員

そうすると、施策の方向性シートP85の「多角的な連携に取り組みます」の1つの証拠という趣旨でよろしいのでしょうか。一義的には第1章-1「子育て支援の充実」のための協定ですが、一方で第5章-2の観点から見るとこういう実例もありますという風に言いたいということを書かれているという認識でよろしいでしょうか。

事務局

そのとおりです。

部会長

P31の施策名の下での2行の部分で、「都市の価値を高めながら」とありますが、本文からシティプロモーションをしていることはわかりますが、どのように「都市の価値を高めながら」を評価しているのかが見えづらいと思います。ここがわかりやすく評価できることを期待しています。先日民間企業の調査で、尼崎市が住みたいまちのトップ5に入っていました。これまでの順位を考えると相当なイメージアップを図られた結果だと思います。このような結果があれば非常にわかりやすいと思います。豊中市は一定イメージが良いので、それをさらに高めるとなると様々な工夫が必要だと思います。

以上で、第一部会が担当するシートをすべて確認したことになりますが、今日確認したシート、あるいは全体を通してのコメントがありましたら、ご発言いただけたらと思います。

委員

私は今回初めて総合計画審議会の部会に参加しました。PDCAサイクルという言葉は聞いたことがあります、具体的にシートに落とし込んだものを見るのは初めてでしたので、少し戸惑いました。誤解しているかもしれませんが、PDCAがまわっていればオッケーということがイマイチわかりません。最初事務局から総合計画審議会の役割について説明がありましたが、一番大事なことは、総合計画に書かれている施策がどこまで実施されたのか、ゴールにどれだけ近づけたのか、それによって市民の暮らしがどう変わったのかわからないとダメだと私は思います。その観点で申しますと、今回見たシートはとてもわかりにくいというのが私の印象です。またABCの3段階で評価をされていますが、具体性に欠けていてよくわかりません。私たち市民にとってわかりやすいことは「%」で表したり、図表やグラフで示すことかと思います。もちろんその裏付けとして、文章で書いたシートは必要だと思いますが、シートが基本になることは無理があるように感じました。また第1回の全体会で、スケジュールの説明がありました。政策評価結果をすでに8月末に公表されているとのことですが、基本的に評価結果を修正する場面がありません。前回の全体会と今回の部会でいろいろと意見が出ていますが、これらの意見を政策評価結果にどう反映させるのかもわかりません。市民のための政策評価とするためにも、市民の意見を聞く機会が必要ではないかと思います。行政評価指針のマネジメントサイクルに基づいてスケジュールを組まれているのだと思いますが、どこかで今申し上げたことに取り組んでもらいたいと思います。

部会長

後者のお話については、2つの観点で審議会の意見を活かせるのではないかと思います。まず1点目は、来年度の施策・事業に関して審議会のコメントを活かして取り組んでいくことができる点、もう1点は令和2年度の評価を次年度行いますが、評価シートを作成するときに審議会のコメントが活かされると思います。少し時期はずれるかもしれませんが、上記の2点で活かしているのではないかと思います。前半部分は私も同様に感じる部分はありますが、おそらく総合評価の理由の文章を読んだときに、市役所の仕事はイメージできますが、市民の暮らしや市民の顔が見える評価の理由になってくれば、もっとわかりやすくなっていくと思います。逆にグラフや表を入れれば入れるほど、市民の姿や市民の顔が見えにくくなっていくのではないかと思います。そういう意味ではエピソードや具体例を随所に組み込んでいくことで、読んでわかりやすくなるのではないかと思います。例えば、子育ての部分では、子育てに悩んでいる人にこういう風に寄り添っていくことで、こんな展開が図られたというように、人の顔、人の生活が見える形で評価の理由を書くことでよりわかりやすくなると思います。そのためには、あまり網羅的に書かない方がいいと思います。網羅的に書けば書くほど、抽象度の高い文章になってしまいます。先ほど委員からも病院をもっと書いていってもいいのではないかとご指摘をいただいたように、メリハリをつけて本当に強調したい部分だけを抜き出して書いていただくとわかりやすくなると思います。

委員

フォーマットが決まっているので、それを逸脱したことはできないと思います。しかし気持ちの中では、次のことを意識していただきたい。量的なデータは一目瞭然なのでたしかに大事ですが、それで書けないものもあります。その場合は、質的に表現にすることはしない方がいいと思います。例えば、生活保護の相談件数は表面化してきたという意味で最初は増えた方がいいですが、本来はない方がいいことなので、それらが抑制される仕組みが整ったので、ある段階からは件数が徐々に下がってきましたというストーリーが理想です。数字を出すにしてもストーリーで、「今どの段階にあるのか」、「今は増えていても大丈夫な段階です」、「今まさに市の施策が功を奏しているのに減っている段階です」というような、担当課の相場観をここに出していただければ、たとえ書いていることが難しい内容でも、市民はわかると思います。

部会長

生駒市でも評価をしています。シティプロモーション担当の課長とお話をしている中で、課長自身も評価について悩まれていました。生駒市はユニークな生活をしている市民の方を取り上げるホームページとして「good cycle ikoma」という市役所とは別に面白いホームページを作成されています。そこでは地域の元気な人たちを紹介していて、その人たちが増えているイメージがありますが、議会からの質問でその割合は何割かと言われて困ってしまったと仰っていました。シティプロモーションは平均像で見られると評価しづらい分野ですので、部署によって使い分けをしてほしいと思います。また生駒市では、市民アンケートを行っていますが、今年は工夫しています。市民全体の平均をとるだけではなく、ライフスタイルで層分けを行い、その層ごとに集計しようとしています。市民サービスを受取るタイプの方、自分たちでユニークな活動を展開されている方というような、層ごとにアンケート集計をしないと、平均しているとまだ市民サービスを受取るタイプの方が多いので、少数の部分は薄まってしまう。豊中市でも気をつけていただきたいのは、平均的なものを見るとユニークさが見えてこないですが、ユニークな活動をしている市民も着実に増えていると思います。具体的には、豊中市の取組みとして最近メディアに取り上げられている中で、キッチンカーがあります。これは、かなりメディアでも取り上げられています。そういう意味ではメディアにとれだけ取り上げられたか、何が取り上げられたかを評価にも反映させてもいいように思います。メディアに取り上げられるということは、社会的にも注目されていて、さらにそれを見た方が注目するという相乗効果が出てきますので、このようなことも評価の理由として考えていただければと思います。

私の大学の広報室では、大学の教授のコメントが欲しい場合は、必ず広報室を通すシステムをとっています。なぜかと言うと近畿大学の先生がどれだけメディア露出するのかということで、社会的なイメージを高めていく戦略です。市役所もメディア戦略を取ってほしいと思いますし、それが社会的評価の一面を示していると思いますので、そこは検討してほしいと思います。そう意味では、先ほど委員からご指摘いただいた地域福祉の分野では、豊中市はいろんなメディアに取り上げられているはずですので、自信をもってアピールしてほしいと思います。

委員

学者の場合は、他者に引用されることが大事なのですが、それと同様に豊中市によく言及されること自体が、都市のイメージを上げていると思います。特にポジティブな点で引用されているのであれば、すごくいいことだと思います。先ほど部会長が仰っていた、スーパー公務員として取り上げられることも、同業者から見て先進的な取り組みをしている人がいるということ言えば、全員がそうとはいかないでしょうが、そういう人もいることは大事だと思います。

部会長

その延長でお話しますと、先ほど豊中市の職員はスマートだと申しましたが、今回の評価でも真面目な部分が出ています。もっとアピール力のある評価を積極的にしていただくと私たちにも伝わってくるように思います。どこの市役所でもそうですが、目立ったらダメという概念があるように思います。ある部局が書くと、他の部局も「じゃあうちの内容も書いてほしい」となって、その結果内容が薄まってしまいます。ですので、代表的な出来事をまず取り上げるようにしていただきたいと思います。

全体を通して、昨年よりはわかりやすくなったと思いますが、まだまだ意見がたくさん出ましたので、意見集にまとめていただけたらと思います。

それでは、案件4「その他」について事務局から説明してください。

●案件4「その他」

事務局

次回の会議についてご説明いたします。本日の次第をご覧ください。本日、第一部会で見ただけ評価シートをすべて見ていただきましたので、次回は12月4日（金）18時～20時の第2回全体会、開催方法は本日と同じZoomによるWEB会議を予定しております。

部会長

何か最後に質問・意見はございませんか。

（特になし）

部会長

本日の案件については、すべて終了いたしました。これをもちまして、第1回豊中市総合計画審議会を閉会します。みなさん、お疲れさまでした。

以上

令和2年度 豊中市総合計画審議会第二部会 第1回会議 議事要旨

- 日時 令和2年(2020年)10月9日(金)18時～20時00分
場所 ZOOMによるWEB会議(事務局は第二庁舎3階大会議室)
出席者 加藤部会長、水上委員、壬生委員、宮前委員、道上委員、宮川委員
計6名
事務局 都市経営部経営計画課：寺田、坂本、田中、島、上田
傍聴者 なし
案件 1. 前回の振り返り
2. 2020年度(2019年度実施分)政策評価結果について
3. その他
資料 【資料1】2020年度(2019年度実施分)政策評価結果
【資料2】令和2年度第1回豊中市総合計画審議会 議事要旨
【参考1】第4次豊中市総合計画(本編)
【参考2】第4次豊中市総合計画(概要版)

会議録 下記のとおり

記

●開会

●成立要件の確認

事務局：

「豊中市総合計画審議会規則」では成立要件として委員の半数の出席を必要としております。本日は委員総数6名中、6名の委員にご出席いただいておりますので、成立要件を満たしております。

本日、傍聴者は0名です

●資料の確認

(事務局より配布資料について説明)

●案件1「前回の振り返り」

部会長

「前回の振り返り」について事務局からお願いします。

事務局

(事務局より資料 2 に基づき、前回の振り返りについての説明)

部会長

ただいまの説明について、ご質問・ご意見はございませんか。

それでは、案件 2 「2020 年度(2019 年度実施分)政策評価結果について」事務局から説明してください。

●案件 2 「2020 年度(2019 年度実施分)政策評価結果について」

(事務局より次第に基づき、政策評価結果のシートを見る時のポイント及び本日の部会の進め方についての説明)

部会長

それではさっそくシートを見ていきます。

(第 3 章-1 「快適な都市環境の保全・創造」シート(P22)について)

委員

質問ですが、ここは「みどり豊かなまちづくり」というテーマで、2 つ目の○で「生産緑地地区の追加指定により生産緑地地区に指定された農地が微増しました」と書いてありますが、P58 の施策の方向性シートを見ると、成果の部分に「市全体の農地の面積は減少しました」、また問題点・今後想定される事項に「2022 年に生産緑地の営農 30 年が期限を迎える」とあります。これは私が仕事上専門にしている分野でして、2022 年になると大量の生産緑地が期限を迎えて、宅地になるのではないかと懸念がかなりあります。いわゆる農家の方々が高齢化したり、農地を手放す人たちが増えてくると懸念があってこういうことが書かれていると思うのですが、実際には下がってきている面積を食い止めるために農地面積の追加指定の緩和がされていると書いてあるのですが、具体的にはどうされたのでしょうか。2022 年に大量の営農地が期限を迎えることに対して具体的にどういう懸念があるのかをもう少し詳しく教えていただければありがたいです。

部会長

只今の質問に対して事務局はすぐには答えられないかもしれませんが、いかがでしょうか。

事務局

手元に資料がないので次回にご説明させていただければと思います。

ただ一部だけお答えしたいと思います。生産緑地の面積要件というのが 500 平米と生産緑地法で決まっていたのですが、平成 29 年に法改正がなされ、市町村の条例で規定すれば 500 平米から 300 平米まで生産緑地の指定を要件緩和できるようになりました。豊中市も平成 31 年 1 月に面積要件を 300 平米に引き下げるといって条例改正をしましたので、今までよりも少し狭い生産緑地も指定することが可能になりました。また、生産緑地の指定自体、長い間追加指定することがなかったのですが、面積要件の緩和を受けまして生産緑地の追加指定を行ったため、市全体としては

【参考 2】

生産緑地の面積が増えました。2022 年問題の課題については、改めて担当部署に確認の上お答えしたいと思います。

部会長

総合評価の理由の最後の一文に「一部未達成の部分や課題もある」と書かれており、施策全体でB評価になっています。「一部未達成」の部分は、何が未達成なのか具体的に書いた方がいいと思います。

それでは次のシートに移ります。

(第 3 章-2「低炭素循環型社会の充実」シート(P23)について)

部会長

ここで少し気になるのは、一部未達成の部分があるのでB評価ということはいいいのですが、「環境にやさしいまち」だと感じている市民の割合が若干ながら増えているものの、半数ちょっとということと併せて考えたときに、P60 の施策の方向性シートの中に書かれている「地球温暖化防止地域計画の推進」、「地球温暖化対策実行計画の推進」というだけで今後 5 年間大丈夫ですかという気がします。温室ガス排出量の 13 年度比でデータは出ていますが、市民の意識はあまり変わっておらず、少し足りない部分があるように感じました。防止計画が既にあるので実行するのですが、情報発信の面で市民に届いていないということであれば、「環境にやさしいまち」だと感じている市民の割合が伸びないという気がしました。ですから、「一部未達成」のところ、この防止計画の推進の指標みたいなものを将来考えられたらどうかと思います。

P60 の施策の方向性シートの 1 つ目の指標で、「市民一人当たりの温室効果ガス排出量 平成 2 年度比(1999 年比)」の 2019 年度の実績値はまだ出ていませんか。

事務局

出典が「とよなかの環境」で現在まだ数値が出ておりません。昨年度も評価結果を見ていただいた時には数値は出ていませんでした。公表する時点が 1 年遅れで数値が入るところになります。

部会長

それは分かっていますが、総合評価の理由のところに「約 1,659 トン減少し、平成 29 年度の実績値を下回りましたが、令和元年度の目標値(102,573 トン)には達しておらず」と書いてありますが、その内容のバックデータはここではないのですか。

事務局

この 102,573 トンにつきましてはごみの焼却量になっており、P61 の施策の方向性シートの説明になっています。

部会長

失礼しました。つまり温室効果ガスのデータは出ていないということですね。ということは、総合評価の理由にある「市域から排出される温室効果ガスの総排出量が削減され、地球温暖化への対策が順調に進んでいます」という言い方が定性的に書いてありますが、データがないのに書いてあるということになります。それはいいのでしょうか。

事務局

確かに今ご指摘いただいたところでは、数字が出ていないにもかかわらず、削減していると書いております。数字で表せない部分を書くのであれば、もう少し書き方を工夫していくこととよろしいでしょうか。

部会長

それでいいですので、意見集に書いておいてください。

この部分は CO2 問題とごみ問題の 2 つの観点で低炭素循環型が政策として成り立っていて、まだまだ取り組むことがあるので B 評価にしていると思いますが、PDCA サイクルがまわっているかという、未達成の部分を達成するように次年度取り組むという趣旨になります。概ね順調に進んでいるが、一部未達成の部分もあるので B 評価にしていると思いますが、一部未達成の部分の内容がわかりません。

事務局

今部会長からご指摘のありました未達成の部分につきましては、前回の全体会でもご意見としていただいたこともあり、今回 PDCA サイクルをまわすうえでは一部未達成という書き方ではなく、未達成の部分があるのであれば、その内容をきちんと書いて A 評価にならない理由をここで示さなければならぬところが書けていないのではないかと思いますので、次年度以降、担当課には具体的に書くように伝えるべきと感じているところです。

部会長

そのように意見を取りまとめてください。

委員

総合評価の理由に記述を足していただいた方がいいと思うことがあります。PDCA サイクルをまわすという観点から申しますと、2 つ目の O の最後に「さらなる取組みが必要です」とありますが、この「さらなる取組み」が何なのかは、このシートを見ただけではわかりません。しかし P61 の施策の方向性シートを見ると、今後こうしていきたいということが具体的に書いてあります。今後の方針のところを見る限りでは、事業系ごみの減量について取り組んでいこうとしていると私は理解しました。そのことを総合評価の理由に書いていただいた方が、次の文章にある「一部未達成部分も見られる」という説明につながるのではないかと思います。

もう一つは、施策の方向性シートに関して、P61 の施策の方向性シートの内容で見ますと、一般のごみももちろんですが、事業系ごみの量を減らしていくことが課題であると担当課は考えているように感じました。ここに指標として挙げてくださいますとまでは言いませんが、せめて事業系ご

【参考2】

みが数字的にどのように推移しているのかということのをこれからしっかりと追って行って、評価シートに書かれる時もその数字を引用しながら説明を書くと、実績や成果、課題というものがよりわかりやすくなると思いました。

部会長

P61の施策の方向性シートには指標について、今は「ごみの焼却処理量」の1つになっていますが、家庭系と事業系に分けて指標を出してはどうですかというご意見です。

委員

より頑張らなければならないもの、頑張ったら成果が得られるものを数字として表しておくのも大事なのではないかと思います。そうでないと取組みの効果を見せることが難しいのではないのでしょうか。

部会長

豊中市は事業系ごみのデータを把握されているのでしょうか。

事業系のごみは広域で民間が集めて、市外に持って行っているケースも結構あるので、なかなか正確に把握するのは難しいとは思いますが。

事務局

担当課の方も集計として家庭系ごみと事業系ごみの排出量については経年で追っているところですので、計画の中で推移を把握しています。

部会長

それに対する減量計画というものを考えようという動きはあるのでしょうか。

事務局

豊中市は一般廃棄物処理基本計画を策定しており、その中で家庭系ごみと事業系ごみを経年で把握しています。目標設定についても各年で設定しているところです。

部会長

ありがとうございます。それでは、先ほどの委員がご指摘された、「もし指標を加えるとするならば」というご提言として、事業系も少し追えるようにしてください、あるいは書き方としては、総合評価のところは事業系の減量が少し足らなかったのがB評価になったとかいう表現にしてはどうかというご意見です。事務局、いかがでしょうか。

事務局

ありがとうございます。ご意見として取りまとめの方をさせていただきます。

部会長

それでは次のシートに移ります。

(第 3 章-3「都市基盤の充実」シート(P24)について)

部会長

私が読んだ感じでは、計画通りに進んでいて、結果も出ているのでいいように思います。

1 つだけ気になったことを申し上げますと、P62 の施策の方向性シートの指標で「下水道管路老朽化対策達成率」がありますが、昨年度の実績値が 20.6、今年度が 50.8 となっていますが、こんなに劇的に上昇するのでしょうか。そもそも下水管の管路老朽化対策とは何でしょうか。下水管を替えるということでしょうか、それとも下水管の中をずっと巻いて行って内管を少し保護する工事のことですか。

事務局

少し説明させていただきます。どのような施設を改修しているかと言いますと、下水道の管路と下水処理場、ポンプ場なども計画をして老朽化対策として進めています。

部会長

素晴らしい取組みだと思いますが、それに対して上水道をさす「老朽化水道管路改修率」と「水道管路耐震適合率」については目標値もそうですが、実績値が低いです。これはそういうものなのでしょうか。普通のマンションですと上水の方の管路変更が先で、排水の方が後回しになるイメージです。

事務局

指標のところに書いてある第 2 次とよなか水未来構想実行計画に基づいて、部会長のおっしゃるように上水と下水の進捗度合は違いますが、その計画の中で進めているとの確認はしています。

部会長

そういう意味では計画通りに進んでいるということですね。

委員

P62 の施策の方向性シートの指標に関してですが、2 つ目の「庄内・豊南町地区不燃領域率」の実績の推移を見ていると、これを見る限りでは 2022 年度の目標値までまだまだ遠そうに見えるのですが、これは先程の下水道と同様、こういうスケジュールで進めていくという計画通りなのでしょうか。

部会長

基本的に庄内・豊南町地区の地区改良というのは、50 年位前からやっています。私が言うのもなんですが、かなり難しいことをしています。この地域の過密の住宅を全部取っ払って改良していくということになります。不燃領域率をこれだけ上げようとするのは大変なことです。事務局いかがでしょうか。もう少し上げられないのでしょうか。

委員

目標値と実績に差がありすぎるので、文章だけを見たときに大丈夫なのかと心配をされる方が出てくると思います。この数字が誤解を与えたりしないのか心配でしたので、質問させていただきました。

部会長

データとしてはあると思いますが、実績値として昨年度から1%上がっていませんよね。

事務局

0.6%です。

加藤部会長

0.6%ということは1%未満ですが、面積的に言うと結構な面積になるのではないかと思います。

事務局

今のご指摘について、計画に基づいて実行しているかどうかの確認はできていないのですが、この指標の出典のところにある防災性向上ガイドラインでまず目標値を立てて、それを1つの目標として進めているところです。ただ委員からのご指摘のように、実績値の進行度合いを見ると若干大丈夫かと感じると思いますが、この目標に向かって市としては取組みを進めているところです。

委員

都市基盤は目に見えてわかりやすいので、改良したところがよくわかり、豊中市に住んでいて非常に快適な暮らしをさせていただいてありがたいと思っています。特にこのシートに書いてあるように千里地区の歩道橋というか、橋梁の改修工事は実際私もよく通る所なので、かなり変わって、便利になったと感じています。質問ですが、バリアフリー化の進捗率も上がっていますが、これは具体的な場所とかを書かなくていいのでしょうか。千里は具体的に書かれていて、よくわかったので有難いのですが、他の地区のバリアフリー化も具体的に書かれた方がいいのではないのでしょうか。

部会長

具体的に言うと、P63 施策の方向性シートの指標の3つ目の「住居地区のバリアフリー化の進捗率」でしょうか。

委員

そうです。P63の施策の方向性シートの影響度の大きかった事業のところに「住居地区バリアフリー整備事業」と書かれていますが、工事を実施した場所とかを具体的に書かれたらもう少しインパクトが出るのではないのでしょうか。

部会長

12%位があがっていて、具体的な場所がたくさんあって書けるかどうかということもあると思いますが、もし千里中央地区がメインであれば、それを書いた方が具体的にインパクトがあり、市民にとってもわかりやすいというご指摘です。

それでは次のシートに移ります。

(第3章-4「魅力的な住環境の形成」シート(P25)について)

委員

総合評価の理由の4つ目の○で、景観づくりについて書かれていますが、「まちの魅力を高める都市景観づくりについてはとよなか百景モバイルスタンプラリーの実施により、豊中市内にある魅力的な景観を、広く市内外の方に周知することができました」とありますが、この周知することと景観づくりというのは直接につながっているのでしょうか。景観づくりと周知することとは別のことではないのかと思っていたので、教えていただければと思います。景観づくりのところが施策の方向性シートを読んでもわかりませんでした。

部会長

P68の施策の方向性シートの影響度の大きかった事業にある「都市景観推進事業」からきているのではないかと思います。私が景観審議会の会長をしていますので、そこで百景を選びました。とよなか百景は豊中市の良い景観を発掘するという目的で、地元の人にはあまり価値が見出されていないものでも、第三者あるいは観光的に見れば質のいいものを発掘して、そこで百景をつくりました。その認識を皆さんにも共有することがよい景観づくりの戦略的な政策という意味で「景観づくり」という言葉を使っているのではないかと思います。ハードな意味での変えるのではなくて、意識を変えるということも「景観づくり」の中に入れていていると思います。

委員

わかりました。それで納得しました。

部会長

総合評価の理由の1つ目の○で「岡町地区については、都市再生整備計画を策定し、都市再生の方向性を示しました。今後は、豊中地区についても地区の再整備に向けた具体策の検討を進めます」とありますが、これはまだ計画はできていないが、地区再生に向けて動き出しますということでB評価にしていますが、計画通りであるのならA評価でもいいような気がしました。計画通りにPDCAはまわっているのではないのですか。

事務局

こちらの方は計画通りに進めているところです。

部会長

B評価なのはちょっと控えめにやっているということですか。

事務局

この項目は順調に進んでいますが、他の項目でも空港関係のところで若干の課題があるため、B評価という判断をさせていただいています。

部会長

B評価というのは課題があって、見直しが必要ということで聞いています。概ね順調で一部取組みの見直しが必要だということであれば、課題はあるわけで、取組みの具体的な見直しを書いておかないとB評価にならないということです。先ほどの委員のご意見にも通じるところですが、施策の方向性の進捗状況はB評価が2つ、A評価が2つで総合評価をB評価としています。総合評価をB評価にした理由があいまいな気がしますので、総合評価をB評価と判断した理由をもう少し具体的に書いた方が市民にはわかりやすいのではないのかと思います。

事務局

総合評価をB評価にした理由を担当課に確認しましたところ、P65(第3章-4-1)及びP66(第3章-4-2)の施策の方向性シートがともにB評価で、その理由としましては、P66の施策の方向性シートの今後の方針の1つ目の○にある「居住支援協議会」について、これから関係部局や不動産事業者、福祉事業者等々とのネットワークをもっと広げる必要があるところが課題という認識をもっているとのこと。このような課題があるという認識から総合評価をB評価としたとのこと。しかし、先ほど部会長からご指摘がありましたように、シートに書けていないので、担当課に伝えます。

部会長

よくわかりますが、A評価が2つあり、ある意味でB評価の2つがそれを上回って、最終的な判断をB評価にしています。B評価の2つの方がより課題が大きいというようなことを書いていないと、総合評価の理由としては弱いのではないかという趣旨です。

事務局

ありがとうございます。B評価であるならば、残された課題を具体的にもう少しわかりやすく書く必要があるということだと理解しました。

部会長

わかりやすく、かつこれがA評価とB評価の数が同じ場合にB評価にした根拠になります。

委員

P65の施策の方向性シートの成果の4つ目の○で「大阪国際空港周辺地域の整備のあり方を検討するため、整備状況の把握や課題の抽出等を行いました」とありますが、具体的にはどのようなことなのでしょう、事務局にお尋ねします。

事務局

具体的な内容の資料を持ち合わせていませんので、次回までに確認させていただきます。

委員

わかりました。また、問題点・今後想定される事項の 5 つ目の○で「未整備箇所の事業のあり方などの課題があり、関係機関や地元住民との協議が必要です」とありますが、具体的な内容を次回にでもあわせてお聞かせいただければと思います。

部会長

それでは次のシートに移ります。

(第 3 章-5「産業振興の充実」シート(P26)について)

委員

施策の方向性の進捗状況が 2 つとも B 評価ですが、市民の意識が 20%に満たないということですね。ここで言う「産業振興の充実」の産業というのは工業と商業の両方が入るのでしょうか。

事務局

総合計画で書いている産業振興とは、工業と商業の両方含んでいます。

委員

総合評価の理由の 1 つ目の○で「住工混在問題が発生する可能性がある」とありますが、市でもこの問題に対して積極的に取り組んでいて、随分と均衡しているようなので、B 評価から A 評価にならないものかと思っています。また 3 つ目の○で「起業・創業支援については、起業相談が増加している」とありますが、いろいろとスタートアップ起業があると思いますが、A 評価になるためには一体どういうことをすればいいのでしょうか。このシートを担当している都市活力部の方はどういう成果を上げれば A 評価になるとお考えなのでしょうか。「地域産業が活性化していると感じる市民の割合」のところで市民の意識が 20%を切っている中で、都市活力部の方が一生懸命頑張られて A 評価になるためには具体的に何を達成すればいいのでしょうか。

事務局

何が実現できたら A 評価になるのかについては、詳細を担当部局に確認したうえで改めてお答えしたいと思います。

委員

例えば起業家の方がスタートアップ拠点であるとよなか起業・チャレンジセンターへ毎月、もしくは年間で何名来られたとか、具体的な数字があればそれなりのプロモーションもできると思いますが、何となくあいまいで P D C A が果たしてまわるのかと疑問に感じました。

部会長

地域経済の活性化のところではいつも議論になると思いますが、P69 や P70 の施策の方向性シートに書かれている内容が少ないように感じます。例えば P69 の施策の方向性シートでは、影響度の大きかった事業として「企業立地促進事業」と「中小企業チャレンジ支援事業」の 2 つの事業が掲げられています。この中にある程度の目標値があればいいんでしょうけれども、その目標値がありません。

委員

1 つはとよなか起業・チャレンジセンターへ来られる方について、目標として何か具体的な数字があれば、これに対する施策が出てくると思います。やはり近隣市で開業するよりも豊中市で開業してもらうようになれば、市の施策も変わってくると思います。数字目標が何も無い場合は打つべき手が打てないのではないのかと思います。現在コロナの問題で補助金とか出ていますけれども、毎月会議所には約 30 社の方が相談に来られていて、これは他の北摂の都市に比べて、豊中市の商工会議所が一番相談の件数が多いと思います。ですから、何か施策があればとよなか起業・チャレンジセンターにもっと多くの方が来られて、豊中市で起業される方がもっと増えるのではないのかと思いますので、積極的に目標をもたれて、PDCAをまわすことでA評価につながっていくのではないのかと思います。

部会長

ありがとうございます。B評価は致し方ないとしても、P70 の施策の方向性シートの今後の方針の 1 つ目の○で「(仮称)新・産業ビジョンの検討において、とよなか起業・チャレンジセンター機能の見直しと整理を行い、今後の方向性を明らかにします」とありますので、とよなか起業・チャレンジセンターのあり方や(仮称)新・産業ビジョンをきちんと作ることを含めて、そういうことも少し付け加えて総合評価に書いた方がA評価になっていくというイメージも沸くというご指摘です。

部会長

それでは次のシートに移ります。

(第 4 章-1「共に生きる平和なまちづくり」シート(P27)について)

委員

全般的に文字が多いので、市民にとって読みにくいのではないかと思います。

まず総合評価の理由の 1 つ目の○では「人権平和センター開設に向けて～」と開設に向けての準備について 2 文に分けて書いていますが、この辺はもっと短くできるのではないかと思います。市民にとってもっとわかりやすい文章を心掛けていただきたいです。

2 つ目の○では「人権についての市民意識調査を実施する」とだけ書いてありますが、P72 の施策の方向性シートの成果の 1 つ目の○では「人権についての市民意識調査を実施した結果、本市の人権啓発や人権教育を進めるうえでの課題が明らかになりました」と書いてありますので、その部分を総合評価の理由のどこかに書くべきではないかと思います。単に実施したということよ

【参考2】

りもそこから何がわかったのかとか、何を市が課題だと思って次の施策に活かしていくのかというところをどこかで触れるべきではないかと思いましたが、私もそこが一番知りたいので、そこを書いてもらいたいというのが要望です。人権啓発パネルの作成に関しても、「従来の人権課題別ではなく、総合的・横断的な人権啓発パネルの作成に取り組みました」とありますが、これは一体何だろうと疑問に思いましたし、特に「総合的」という言葉はいろいろな箇所に出てくるので、そこはもう少しわかりやすく書かないといけないのではないかと思います。

3つ目の○では「その結果、本市の男女共同参画社会の実現に向けて新たな視点で物事を捉えることができました」とありますが、「新たな視点」とは何かを知りたいですので、具体的にどのようなかという部分をきちんと書いてもらいたいと思いました。

4つ目の○では、A評価であることはいいのですが、P74の施策の方向性シートについて、以前に他の委員も仰っていたのですが、ここの事業がほとんど国際交流センターと市役所で行っている、外国人向けの施策だけ書いています。特に指標について申しますと、日本人に対してどのように働きかけるのかという指標があるのではないかというのが1つです。

また、P72の施策の方向性シートの指標の1つ目で「人権ケースワーク事業の相談件数」がありますが、2018年度の実績値が90件、2019年度の実績値が95件に対し、2022年度目標値が200件と大幅に増えます。ここまで大幅に増えるのは何故なのかが気になりましたので、教えていただきたいです。同じく4つ目の指標に「人権問題事業者学習会の参加人数」がありますが、これを指標にするよりも、例えばP73の1つ目の指標にある「男女共同参画を推進する学習講座数」のように、どれだけ市が市民に働きかけるということを指標にしてはどうでしょうか。人数というのは誰を呼ぶかで増えたり減ったりしますので、それよりも市がコンスタントに市民に向けて情報発信をしたり、学習の場を設けるといような講座数とか講演回数とかを指標にする方がわかりやすいのではないかと思います。

部会長

私を知る範囲では、総合評価の理由の3つ目の○にある「新たな視点」についてですが、すてっぷの指定管理者選定評価委員会を行ったときに、この「新たな視点」とはLGBTのことでした。これまでの男女共同参画ではあまり問題にならなかったのですが、今では男女の境界をひくような言葉自体がおかしい、時代遅れだという意見だったと思います。

委員

大阪府がパートナーシップの施策を作って、それが豊中市でも適用されることになります。そういう意味では施策の方向性シートの中に、同性パートナーの証明書を発行することも豊中市もやりますというような具体的なことを書いた方がいいと思いますし、施策シートでも「新たな視点」だけ書くのではなく、もう少し他のところを縮めてでも、豊中市の新しいことなどを市民に向けての情報発信としても書いていくべきだと思います。

部会長

行政なので、ある程度熟してこなければ書けないという変な忖度があったようにも思います。

公開されていない会議で議論している時は割とスムーズに出る言葉が、こういう一般公開になる文章だと、どうしても抽象化してしまい、それがわかりにくさにつながっているようにも感じますので、ご指摘いただいたことで書ける部分がであれば、是非入れたらいいのではないかと私も思います。

総合評価の理由の1つ目と2つ目の○でいただいた、簡潔にできるところと課題をきちんと明確に書けるところは書くべきだというご指摘については、その通りだと思いますので、来年の文章ではそういう意見にまとめさせていただきたいと思います。

先ほども申しましたが、施策の方向性の進捗状況でA評価が2つ、B評価が2つの場合は、総合評価をB評価とした理由を具体的に書く必要があります。どこが足りていないのでA評価にならないのかを書くことでわかりやすくなります。先ほどの委員のご指摘を整理していく中で、そのあたりも出てきそうな気がします。あるいは2つ目、3つ目の○の文章を整理することでB評価だということをより印象付けられる文章になるのではないかと思います。事務局そのようにまとめていただけますか。

事務局

そのようにまとめさせていただきます。

委員

これも前から申ししていますが、P72の施策の方向性シートの指標で、他の人権課題はいろいろなところに指標が入っていますが、同和問題、部落問題だけは文章としては書いていますが、指標として設けられていません。私は入れるべきだと思います。例えば年に少なくとも1回ぐらいは部落問題の講座の機会をもつとかでもいいと思いますので、繰り返し言っておきたいと思います。

部会長

同和問題の啓発事業ということですか？

委員

同和問題という言葉は文章に入っていますが、指標の中に部落問題を意識したものが盛り込まれているとは言い難い部分があります。他の人権問題については福祉分野か少なくともどこかで網羅されていますが、部落問題だけは網羅されていない部分があると感じましたので、意見を述べました。

部会長

それでは次のシートに移ります。

(第4章-2「市民文化の創造」シート(P28)について)

部会長

このシートは、他のシートに比べて文量が少ないように感じます。このシートは創造と保全・保存の 2 つの側面が 1 つになっています。P75 の施策の方向性シートを見ると、創造の面で市民ホールの指標が 4 つあり、保存の面で文化財啓発の指標が 1 つです。創造と保全どちらも重要ですが、保全の活用の扱いが非常に小さいように思います。たしかに国とか府の事業に依存せざるをえない部分はあると思いますが、P28 の総合評価の理由にある「計画や構想の策定に取り組んでいく必要があるため、施策全体の評価を「B」としました」と保存の面だと思えます。これだけだと創造の方はうまくまわっているように感じます。これを B 評価するのであれば、もう少し具体的にその中身を書いていただきたいです。何を見直さなければいけないのかという部分です。

委員

市民目線で言いますと、この項目はすごく重要で、豊中市は「文化都市」と位置付けられると周りの方とか私の職場とかとかも含めて捉えております。個人的にも B' z の松本さんが豊中市出身ということで、すごく興味があり、世間的にも豊中市は「文化都市」というイメージがありますので、この評価シートはもう少し力を入れて書いた方がいいように思います。文化芸術センターを作って、また市民ホールを最大限に利用して、いろいろな芸術家や音楽家の方を招いたりする実績もありますので、この文化都市である豊中をアピールする意味で、A 評価にしてもいいように個人的には思いました。P75 の施策の方向性シートの指標を見ても、一部は悪いところもありますが、市民ホールの利用率であったり、他の都市にはない文化的な色彩をかなり感じるのでもう少し自信をもって、内容ももう少し充実して書かれた方がよさそうな施策シートではないかと個人的には思いました。

部会長

私も同感でして、総合評価を B 評価とした理由がよくわかりません。あえて B 評価ということにこだわるのであれば、先ほどご指摘した保全・保存の施策の方に少し課題があるのではないかと思います。それにしても「文化的なまちであると感じている市民の割合」が 2017 年度は 57%、2019 年度は 58.6%とほとんど変わっていないことはいいとしても、絶対数が 6 割弱というのは、この辺の弱みが影響しているような気がします。しかし、計画の進捗管理と P D C A サイクルの観点から言いますと、A 評価でもいいのではないかと思います。

委員

私も全体を見ていて、B 評価にしなくていいように思っていました。当然今後解決しないといけない課題、問題点というものは今回の新型コロナウイルス感染症の流行ということもあって、そのことにも結構しっかりと書かれているので、そっちに引っ張られたような印象があります。市民文化の創造というところというと、やはり施策シートにはあまり書かれていませんが、市民ホールを上手に使って鑑賞の機会をたくさん提供できているということであるとか、影響度の大きかった事業のところにワークショップやアウトリーチの普及育成事業を展開しているということもちゃんと書いているので、例えばどういうターゲットに向けて行ったとか、何回開催した、新しくこんなことを始めたということを施策シートにしっかりと書いていくことで A 評価にしやすくなるのではないかと思います。

委員

私も皆さんと同じように、まさに「音楽あふれるまち」ということで全体的な文化度は高いと思います。いろんな文化財もありますので、ここのB評価は辛口ではないかと私も思います。

部会長

それでは次のシートに移ります。

(第4章-3「健康と生きがいづくりの推進」シート(P29)について)

部会長

ここでは2つの施策の方向性がある、「生涯を通じた学びの機会の充実と成果を活かせる機会づくり」がB評価で、「生涯を通じて、健康で生きがいをもって暮らせる環境づくり」がA評価ということです。これも総合評価がB評価ということですが、健康の方は進んでいるけれど、連携が足りないのがB評価としたということでしょうか。

委員

総合評価の理由の最後の一文にある「引き続き関連部局、機関と連携した取組みを進めていく必要があるため」というところをもっと具体的に書かないとたぶん次の施策につながらないと思います。どういう関連部局とどういう連携をとるのかを具体的に書いていただきたいですし、知りたいと思います。

部会長

B評価をつけた理由を含めて説明できるような書き方をしてくださいというご指摘です。

P77の施策の方向性シートの指標の3つ目に「65歳以上人口に占める要介護認定率」がありますが、実績値が20%ぐらいで推移していて、2020年度は減少という目標を置かれていますが、おそらく高齢化社会で高齢者が増えるから%で表していると思いますが、その見直しは必要ないのでしょうか。ここでの減少は、65歳以上の人口は増えるけれども、要介護認定率は今より減少するということはリアリティがあるのか心配に思いました。目標値として減少と出しているのは、どこかで計画を作っているのでしょうか、事務局いかがでしょうか。

事務局

この施策を通じて、健康で生きがいをもって暮らすことで、要介護認定を受けなくても生活できるような高齢者を増やすことをめざすという意味で、減少という目標を置いています。しかし実際には増えているのが現状です。部会長が仰るように、高齢者の母数が増えていて、後期高齢者の方も増えているということもありますので、75歳を超えると要介護認定を受ける方がどうしても増えてしまうという実態もあります。

部会長

そのあたりのことも含めて、P77 の施策の方向性シートは A 評価になっているわけですね。しかし総合評価は B 評価ということですので、B 評価にした理由をきちんとここで書いていただきたいということです。

委員

P77 の施策の方向性シートの今後の方針のところの 4 つ目の○で、この文章の意図が私はよくわかりません。今後の方針と言っている割に、とても抽象的なことを書いているような気がします。もし可能ならば、自主グループを増やしたいと思っているのであれば、そのために一体何をするのか、何をしたいと考えているのかということを書いた方が、来年度以降評価をして、また PDCA サイクルをまわすうえでは大事ではないかと思います。

部会長

要するに、要介護状態にならずに自立した生活を継続する高齢者を増やすことで、要介護保険制度の安定的運営を図るという今後の方針をもつということですね。そうであるならば、前半部分はいらないように思います。

委員

私は自主グループを増やすために何か支援をしていこうという決意が書かれているのではないかと思います。

部会長

それは計画または政策のところで書かれていましたでしょうか。

委員

ここにはないです。ですので、ここだけ浮いているというか、前後が合っていないという印象を受けます。

部会長

自助・共助・公助を進める中で、公助はなるべく節約しようというのが国の路線です。自主グループが増加するだけでは、市民の目線ではわからないというご指摘だと思います。

事務局

要介護認定のところのお話ですが、データとしては、前期高齢者の要介護認定率がここ 5 年間減少傾向にあり、この方々が 75 歳を迎えるまで今の健康な状態を維持していただきたいという思いが担当課としてはあります。豊中市が今取り組んでいるところとしましては、P77 の施策の方向性シートの成果の 1 つ目の○に書いてある「とよなかパワーアップ体操」で要介護認定にならないように運動等をして、健康を維持するという自主グループがどんどん増えていっている現状があります。この取り組みをどんどん進めていくことで今の前期高齢者の方々が後期高齢者になられても健康な状態を維持していけるという意味でこういう風に書いていると思われま

部会長

要するに、2025 年を境に後期高齢者が大幅に増えるので、介護保険制度がより厳しくなるという見通しがあることと、それを自主グループの体操で元気を維持していくということですね。総合評価の理由の書きぶりについては、壬生委員いかがでしょうか。

委員

総合評価の理由の 2 つ目の○については理解できました。

部会長

先ほども申しましたが、総合評価が B 評価ですので、A 評価ではなく、B 評価にした理由をきちんと書いていただきたいと思います。

今回の部会が出た意見については、私の方でまとめさせていただいて、次回の総合計画審議会でご報告させていただきます。

それでは、案件 4 「その他」について事務局から説明してください。

●案件 4 「その他」

事務局

次回の会議についてご説明いたします。本日の次第をご覧ください。本日、第二部会で見ただく評価シートをすべて見ていただきましたので、次回は 12 月 4 日（金）18 時～20 時の第 2 回全体会、開催方法は本日と同じ Zoom による WEB 会議を予定しております。

部会長

何か最後に質問・意見はございませんか。

（特になし）

部会長

本日の案件については、すべて終了いたしました。これをもちまして、第 1 回豊中市総合計画審議会を閉会します。みなさん、お疲れさまでした。

以上